

各 位

2016年5月20日
SBI ファーマ株式会社

**東京大学との共同出願による
放射線障害の予防・治療剤に関する特許取得のお知らせ**

SBIホールディングス株式会社の子会社で5-アミノレブリン酸（ALA）（※1）を利用した医薬品、健康食品及び化粧品の研究・開発等を行っているSBIファーマ株式会社（本社：東京都港区、代表：北尾吉孝、以下「SBIファーマ」）は、放射線障害の予防・治療剤に関して、このたび日本での特許を取得しましたので、お知らせいたします。

なお、本特許は、国立大学法人東京大学（所在地：東京都文京区、総長：五神 真）と共同で出願したものです。

【特許番号】 特許第5920902号

【発明の名称】 放射線障害の予防及び／又は治療剤

【特許権者】 国立大学法人東京大学、SBIファーマ株式会社

【特許出願日】 2013年7月11日

放射線障害は、X線、ガンマ線等の放射線に被ばくすることにより発生する身体的な障害や損傷の総称で、その原因として放射線照射や放射能汚染等が知られています。今日行われている放射線暴露（放射線にさらされること、被ばく）に対する治療方法としては、造血を促進するサイトカイン（※2）の投与や骨髄移植等がありますが、放射線障害の症状の1つである骨髄抑制（※3）に対する方法にとどまります。

我々は、放射線照射モデルマウスを用いた実験において、ALAが放射線障害に起因する生存率を向上させ、体重の減少を改善し、造血障害を緩和するなど、新たな作用機序で、広範な症状に対処し得ることを見だし、このたび特許を取得いたしました。

SBIファーマはアンメットメディカルニーズに応える医薬品を世界中の一人でも多くの方に提供できるよう、今後もALAの様々な可能性を追求し、医薬品等の研究開発に努めてまいります。

（※1）5-アミノレブリン酸（ALA）とは：体内のミトコンドリアで作られるアミノ酸。ヘムやシトクロムと呼ばれるエネルギー生産に関与する機能分子の原料となる重要な物質ですが、加齢に伴い生産性が低下することが知られています。ALAは、焼酎粕や赤ワイン、高麗人参等の食品にも含まれるほか、植物の葉緑体原料としても知られています。

（※2）サイトカインとは：免疫システムの細胞から分泌される特殊なタンパク質の総称です。造血を促進するサイトカインには、G-CSFなどが知られています。

（※3）骨髄抑制とは：骨髄の働きが低下している状態のことです。赤血球、白血球または血小板などの血液細胞が減少することで、貧血などの症状が現れます。

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせ先：

SBI ファーマ株式会社 経営企画部 03-6229-0095